2008
No. 7
May

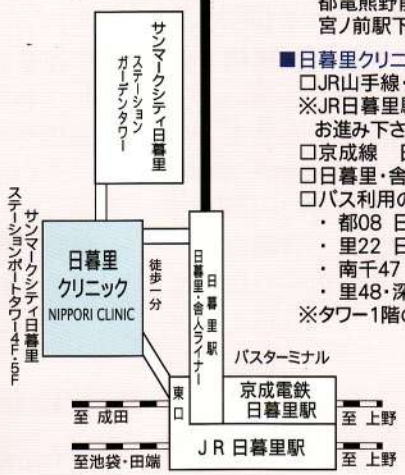
# メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111 ＦＡＸ03-3894-0282 http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

## 都営『日暮里・舎人ライナー』が開通しました！

桜満開の去る、３月３０日(日)に都営『日暮里・舎人ライナー』が開通しました。この開通により日暮里駅から舎人地区の見沼代親水公園駅まで約２０分で結ばれます。舎人地区・沿線の患者様にはすごく便利になったことと思います。是非、東京女子医科大学東医療センターおよび日暮里クリニックへ患者様をご紹介いただきますよう宜しくお願いいたします。本号では、心の医療科、血液浄化部、在宅医療部、歯科口腔外科、栄養課のご紹介をさせていただきます。




■交通のご案内

■東医療センターで診察を受ける患者様への交通のご案内
□日暮里駅より日暮里・舎人ライナー(見沼代親水公園行き)に乗り、熊野前駅下車。徒歩5分。
都電熊野前駅より都電荒川線(早稲田行き)に乗り、宮ノ前駅下車。徒歩3分。

■日暮里クリニックで診察を受ける患者様への交通のご案内
□JR山手線・常磐線・京浜東北線　日暮里駅東口
※JR日暮里駅では一旦、北改札へ出られて東口へお進み下さい。
□京成線　日暮里駅東口
□日暮里・舎人ライナー 日暮里駅下車　徒歩1分
□バス利用の場合
・都08 日暮里駅～錦糸町駅
・里22 日暮里駅～亀戸駅
・南千47 日暮里駅～南千住駅東口
・里48・深夜04 日暮里駅～舎人二ツ橋
※タワー1階のエレベーターをご利用下さい。

## 心の医療科の紹介

心の医療科 准教授 山田 和男



心の医療科は、東京女子医科大学東医療センターにおいて精神科外来・リエゾン業務を担当しています。外来は、月～金曜（休診日を除く）の午前中のみ、初診・再診ともにすべて予約制です。初めての患者様は、あらかじめお電話にて予約を取っていただいた上で、受診していただくこととなっております。(紹介状をお持ちの患者様も同様です) 初めての方の予約は、月～金曜（休診日を除く）の午前９時から午後３時の間、「心の医療科・受付」にて承っております。２回目以降の予約に関しては、初診医と相談の上で決めます。また、午後は、完全予約制で、気分障害、不安障害、心身症、女性更年期、ＯＦＰ（口腔顔面痛）、ＰＭＤＤ（月経前不快気分障害）などの特殊外来も行っております。

「ストレス社会」ともよばれる現代社会において、近年、うつ病やパニック障害などの精神疾患にかかってしまう方が増えています。心の医療科では、このような患者様のご来院・ご紹介をお待ちしております。なお、当センターの心の医療科は、外来のみで、精神科ベッドはありませんので、自殺の可能性があるというような、入院が必要な患者様はお受けできません。薬物・アルコール依存症のプログラムや精神科デイケアなどの社会療法も行っておりませんので、これらのプログラムを必要とする薬物・アルコール依存症の患者様や、精神科リハビリテーションが必要な統合失調症の患者様は、これらのプログラムや社会療法を行っている医療機関への受診をおすすめしております。

さらに、心の医療科は、当センターにおけるリエゾン業務にも力を入れております。リエゾンとは、院内の他科（三次救急を含む）と協力した精神科治療を指しますが、当センターに入院中の患者様のメンタル面でのサポートを行っております。

## 血液浄化部の紹介

内科 教授　佐中　　孜



東京女子医科大学東医療センター血液浄化部は、平成１３年４月１日から始まった診療部門です。

部長である佐中　孜が平成１０年に東京女子医科大学腎臓病総合医療センターから当院に異動したことが開設のきっかけになっています。

私自身は昭和４８年から慢性腎臓病の早期発見、寛解を目指した治療に取り組んできましたので、当診療部門は、単なる血液浄化、腎臓内科にとどまらず、腎臓病患者様の一般内科、総合内科としての体裁を名実共にもっています。しかも、平成１９年９月１日からは副部長として泌尿器科の中澤速和准教授を迎え、泌尿器科との兼任運営になっています。

また、私は日本透析医学会、日本アフェレーシス学会、日本腹膜透析研究会、ＣＡＰＤ支援機構、腎臓病早期発見機構の理事あるいは理事長を務め、平成２１年６月には日本有数の学術集団であります日本透析医学会を主宰します。 ここでは innovation を合い言葉に最先端の医療、医学を世界に向かって発信します。このように、当診療部は、自画自賛と言われるかもしれませんが、内容の充実ぶりはめざましいものがあると自負致しております。そこで、私たちの診療内容の特徴の一端を紹介したいと思います。

血液透析は、２４床が月水金曜日の２部制をひいての稼働運営となっています。ここでは、通常の血液透析の他に、血液濾過法、血漿交換療法、血液（血漿）吸着療法も行っています。ＣＡＰＤ療法は最も力を入れている専門領域の１つで、ＣＡＰＤの導入から維持まで全て私たちの手で行われており、これも自画自賛ですが豊富な臨床経験は誇りに感じています。これまで、全国でも有数の施設として研修希望があるため、平成２０年度からは研修ユニットを発足させ、医療スタッフの育成、患者教育にも力点を置く所存でして、全国から注目されています。

このように、当科に勤務する医師は、腎癌、泌尿器疾患、急性・慢性腎不全、糖尿病性腎症、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ループス腎炎、高血圧、高脂血症、リウマチ、膠原病、内分泌代謝疾患、尿路結石、尿路感染症、透析合併症の診療も得意としています。これらの疾患についての外来部門を日暮里クリニックにも開いています。

その他、学会活動、市民への啓発活動も積極的におこなっております。なかでも慢性腎臓病患者様を対象とした勉強会であるニーレの会は昭和６２年７月から続けています。

## 在宅医療部の紹介

在宅医療部 准教授 山中　　崇



在宅医療部は大学病院から訪問診療・往診、訪問看護を行う、全国でも数少ない部門です。平成６年１月２６日に設置された後、これまで２３４名に訪問診療、訪問看護を行ってきました。平成２０年４月１日現在の訪問診療対象者は６０名、訪問看護対象者は１０名で、１ヶ月に約１４０回の訪問診療・往診を行っています。当院からの訪問看護は在宅人工呼吸療法を行っている方など医療ニーズの高い方に限られ、その他の訪問看護につきましては、地域の訪問看護ステーションと連携しています。訪問エリアは荒川区、足立区、北区を原則としています。疾患の内訳を見ますと、地域医師会、保健所との神経難病への取り組みを礎として発展的に発足いたしました経緯もあり、発足当時は神経難病の対象者が多く、現在もその傾向は引き継がれています。それに加え、最近では悪性腫瘍、在宅ターミナルケア、高齢者、内科疾患の対象者が増えています。大学病院の性格上、急性期医療を中心とする当センター内での医療と比べ、亜急性期～慢性期を主な対象とする在宅医療では少し異なるアプローチを必要とします。自宅という生活の場で医療を提供することにより在宅生活の継続が可能になること、さらにはＱＯＬ向上につながることを目指した医療と言えます。そこでは内科との緊密な連携のもと、リハビリテーション、高齢者総合機能評価法、緩和ケアなどの理論に基づいた医療の提供をしています。しかしながら、在宅医療はそれだけで完結することはできませんので、今後とも各診療科、地域の皆様方からのご支援をお願い申し上げます。

スタッフは医師が山中　崇、山本直宗、堀田典寛、高杉絵美子、石川元直、看護師が菅野和子（患者相談室との兼任師長）、小笠原保子、事務が武多和利絵です。また、医師の卒後臨床研修のなかで必修研修として位置づけられている地域医療・保健臨床研修において、また選択研修として、研修医の先生方も訪問診療を共にしています。病院内の医療とは異なる在宅医療の実際を体験することにより、研修後に様々な専門科を選択されるにせよ、将来在宅医療の姿を思い出して医療にあたってくださるのではないかと期待しています。

訪問診療、訪問看護を必要とする方がいらっしゃいましたら内線４６４１在宅医療部までご連絡をお待ちしております。

## 歯科口腔外科の紹介

歯科口腔外科 教授 阿部 廣幸



東京女子医科大学東医療センター歯科口腔外科は、口腔領域全般の疾患治療を担う城東地域の中心施設として昭和４１年７月に新設されました。

その地域性から地域に密着した医療と、病院の規模から関連各科との連携を特色としています。

歯科口腔外科の現在のベッド数は東５Ａに５床を有し、外来歯科治療装置は５号館２Ｆに６台を擁しています。年間外来患者数は１８０００人前後、入院患者様は年間１５０人前後で、年間入院手術件数は１００件前後であります。当直体制をとって、夜間の入院患者様の管理と救急患者様の処置にあたっています。在局歯科医師数は１０名であり、日本口腔外科学会指導医、専門医を２名擁しています。当科では、一般歯科疾患の外来治療と口腔外科疾患の外来、入院下での外科治療を主に行っています。これらの疾患の患者様の所謂有病率は、その地域性も重なって、循環器疾患や代謝性疾患、感染症などの疾患を併せ持つ比率が高く、内科、外科など関連各科との連携をスムーズに図りながら初期の目的を達成するよう心がけて診療に努めています。

外来での口腔外科疾患の主な疾患である、所謂親知らずの歯の炎症性疾患、智歯周囲炎などの消炎後の外科処置である抜歯術は、地域の歯科診療所からの紹介も多数となり、部長への紹介の場合、全てへの対応は困難な状態となっています。

入院管理下での口腔外科治療を要する主な疾患は、近年では、顎顔面口腔組織の損傷、炎症と口腔腫瘍が上げられます。前者は救急救命センターの開設以来、症例の紹介を賜っており、その手術例も多数となってきております。後者の口腔腫瘍のうちの口腔癌は、その地域性からか症例は年々増加傾向にあるように考えられます。その治療法は原則として術前化学療法後切除としており、“医者がすすめる専門病院、東京都版”掲載のごとく、早期発見、早期治療、口腔ケアーの実践を心がけて医療を行っています。

以上の如く歯科口腔外科では病診連携を図り、良質な医療を地域で提供することをコンセプトに診療を行います。これからも宜しくご支援、ご指導をお願い申し上げます。

## NSTの取り組みについて

栄養課 課長 羽田 茲子



ＮＳＴ（Nutrition Support Team）は昭和３５年代の中心静脈栄養（ＴＰＮ）の開発普及と共に欧米を中心に世界各地に広がり始めました。今では診療部門のひとつとして設立されているところも多くあるようです。ＮＳＴが医療の質の向上や医療費の削減に貢献することを全ての医療従事者が認識しているからといわれます。日本では栄養に対する認識が諸外国に比べて低かったこともあり、その普及は遅く平成１０年ごろからです。しかし意識の高まりと共に増加し、平成１７年末には全国の約７００施設でＮＳＴが設置されるようになりました。この傾向に政府も動き、平成１８年４月の診療報酬改訂では、入院患者様の栄養管理実施加算が新設され、ほとんどの医療施設がＮＳＴを積極的に設置するきっかけとなりました。

当院では平成１８年４月より、管理栄養士が入院患者様の全てに対して栄養管理計画表を作成し、栄養アセスメントと食事のケアーを行っています。

この過去１年間の実績を踏まえて、平成１９年６月にＮＳＴ委員会が設置されました。管理栄養士をはじめ、医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務員の約２０名がメンバーとなっています。委員会は毎月実施、栄養アセスメントの報告や症例の検討および勉強会を行い、今後の活動に生かすべく知識の向上に努めています。

当院入院患者様には約２５％に低栄養が見られ、その内の５％は長期の入院患者様です。特に多い診療科はＩＣＵで５２％以上、内科４３％以上、外科３２％以上となっています。この状況を改善するため、平成２０年４月よりＮＳＴ回診を開始しました。

術後の低栄養が多く、ＮＳＴ発足のきっかけとなった外科病棟より始めました。栄養状態を改善し、免疫力を上げ、感染や合併症の予防、術後の回復を早めて、入院期間の短縮を図ることがＮＳＴ活動の目標です。そして、究極の目標は食事を美味しく食べられるように支援することです。われわれ栄養課員は美味しく栄養バランスの良い豊かな食事作りに日々邁進しています。



長野県 飯山市 千曲川（医療情報映像室 住友撮影）

## 卒後初期臨床研修を終えた感想

産婦人科 医療練士　井出 早苗

２年間の初期臨床研修も無事全員で卒業することが出来て大変嬉しく思います。２年前は期待と不安な気持で研修をスタートしました。臨床研修制度が始まって３期生ということもありシステムも安定してきたのではないかと思います。研修センター長である川真田先生をはじめ業務管理課の方々には色々と意見を聞いていただき、とても充実した研修を行うことが出来ました。

女子医大東医療センターの研修では大病院と違ってcommon diseaseを数多く経験出来たと思います。将来は外科系に進みたいと思っていた私にとって６ヶ月の内科研修を東医療センターで行った事は一生の宝物になりました。また特徴的と思われる救急外来での研修も大変勉強になりました。１次救急疾患から３次救急適応になるのでは？と思われる症例まで様々な患者様が来院されました。次の日に長時間の手術があろうとも救急外来に来る患者様は絶えず、忙しいときには１～２時間しか眠れない日もありました。しかし、まず、患者様の医療面接をし状態を把握し、見逃してはならない疾患を除外し、必要と思われる検査を施行する。時には最悪の状態を考えて処置を考えるなど、何科の医師になろうとも必要となるであろう初期対応についてとても勉強になる救急外来でした。重症な症例や珍しい症例があれば、次の日の研修医室では前日の救急外来での話しで持ちきりになり、そのような時はどう対応すべきか？やってはいけないことは？など同期の中で勉強した事を思い出します。

どんなに勉強しても尽くしても治療が難しい症例も多々あり、医療の限界を感じるたびにもどかしく、そういう時こそ患者様や家族との関係を大事にしていかなくてはならなかったりと医学の知識だけでは乗り越えられないような山をいくつも経験しました。辛いこともたくさんありましたが、２１人の同期に恵まれ充実した研修医生活を送る事ができました。この２年間の経験を生かして今後も頑張って行こうと思います。また今までお世話になった先輩や諸先生方、また業務管理課の方々に心から感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。



長野県 安曇野市 大王わさび農場（医療情報映像室 住友撮影）

## 地域連携室よりお知らせ

室　長　小児科教授 杉原 茂孝　　担当者 古賀三枝子・佐藤さみ子

代表電話　03-3810-1112（ダイヤルイン）内線6151
FAX　　03-3893-0772

※ 当院専用の紹介・診療情報提供書用紙をお送りさせていただいております。
※ 検査科ダイレクトオーダーシステム（光学診療部予約）の受付
※ 放射線科（各検査予約）の受付
※ FAXにて診療申込受付ができます。
（FAX診療申込書をいただければ、事前にカルテを作成いたしますので、患者様は受診される科の窓口へ直接お越し下さい。）
※ 診療申込書（紹介状をお持ちの方）はインターネットからダウンロード出来ます。
http://www.twmu.ac.jp/DHN/annai/gairai/dl/sinryoumousikomi.pdf

### お知らせ

第12回「東京女子医科大学東医療センターフォーラム」
日 時：平成20年7月5日(土)午後3時より(予定)
場 所：ホテルラングウッド
荒川区東日暮里5-50-5
TEL 03-3803-1234
講 演：診療報酬改定・最近の分娩事情・感染症(肺炎)・
ストロークユニット・外来化学療法など(予定)
お問い合わせ先：地域連携室 内線 6151または
業務管理課 内線 4433

### 編集後記

『日暮里・舎人ライナー』に乗って終点の見沼代親水公園へ約20分の旅をしてきました。隅田川から荒川を越え、桜・菜の花・チューリップが咲き誇る舎人公園を下に見ながら楽しい高所散歩でした。一度、試乗してみてはいかがですか?

「ストレス社会」「格差社会」「高齢社会」と言われる現在、若者も高齢者も精神疾患にかかってしまう方が増えているそうです。訪問診療、訪問看護、心の医療科においても当院が地域医療のニーズに応えます。

次回の発行は平成20年11月を予定しております。

（地域連携室 古賀）